

2013年12月 44号

平和憲法を守ろう!

9 ひらつか



9条の会 ニュース

文責：事務局長 司法書士 大谷 潔 Tel.0463-24-0702/FAX 24-0712

連絡先：〒254-0811 平塚市八重咲町2番8号イケルブルビル3階 平塚松風司法書士事務所

Email: matsukaze@mb.scn-net.ne.jp

ホームページ：http://www.geocities.jp/hirakujojp/



十一月三日(日)平塚駅頭宣伝

憲法施行日を記念して、定例の宣伝活動をおこないました。参加者はすくなくったですが、「九条を守れ」のビラを配布し、多くの市民にアピールしました。

第5回全国集会特集

★十二月七日「秘密保護法」が参議院で与党による強行採決。国会論議でこの法案の危険性が明らかになってきたため。

★「秘密」の定義が、防衛、外交から特定有害活動やテロ防止と広範囲。何でも指定できる危険があります。秘密の内容が秘密であるため、政府が秘密とすればすべて秘密となります。

★秘密の取得、漏洩を話し合う(共謀)、そそのかす(教唆)、あおる(煽動)行為が取り締まりの対象となります。政府の行為を調査するため、秘密を知ろうとする取材者や市民運動に取り組む人たちまで、処罰の対象となり得ます。

★秘密の内容チェックは、第三者機関で行うとのこと。しかし、第三者といっても政府内部の人間が行います。これではチェックが出来るはずはありません。

★戦前、国民に事実を隠して戦争に突入しました。政府の行為で再び戦争を起こさないためには、国民は事実を知る権利があります。この法案はその権利を踏みにじるもので、廃止しかありません。(二〇一三年十二月十二日)

九条の会 第5回全国交流・討論集会 参加報告

事務局長 大谷潔

11月16日に日本教育会館ホール（東京都千代田区）で行われた全国交流集会に参加しました。約600名程度。



呼びかけ人あいさつ

奥平康弘氏「特定秘密保護法案は通してはならない。国が秘密をもつことは、国が戦争をすることにつながる。9条改定の内堀が埋められる。1971年ベトナム戦争時に国防省の高官エルスバーグが国防省の報告書を公表しようとしたところ、大統領令で阻止されそうになったが、裁判で差し止めが棄却され、公開された。公表されても何も問題が起こらなかった。」

澤地久枝氏「特定秘密保護法案の秘密の範囲が特定されていない。私は国を信用しない。戦前戦中、満州吉林にいたが、国が一晩のうちにかき消えてしまった。尖閣諸島の問題は、外交がどこかへ行ってしまった。挑発的だ。武力衝突が起こるかもしれない。」

大江健三郎氏「大学るとき恩師から、”libre examen”（自由な検討）という言葉を知った。自由に検討することが”humanism”（人間らしいこと）につながる。今私たちが生きているこの環境を次世代に引き渡すことが一番大切なモラルだ。放射能で次の世代の人々が生きられないようにしてはならない。憲法を守ることが次世代の人々に世界を渡すことだ。」

シンポジウム

浦田一郎氏（明治大学教授）「憲法と集団的自衛権—政府解釈の変更を中心に」

個別的自衛権は、自国が武力攻撃を受けた場合に武力で反撃する権利。集団的自衛権は、他国が武力攻撃を受け、自国が武力攻撃を受けていない場合に武力で反撃する権利。国連憲章第51条ですべての国が保有することになっている。軍事同盟であり、緊張を高め、他国を支配することもある。政府解釈では、自衛のための必要最小限の実力は保有できることになっていた。これを踏み越えて、集団的自衛権を行使することを認めれば、九条がないのと同じことになる。立憲主義の立場からは、憲法を変えるなら96条の手続を踏むべきだということになる。九条護憲の立場からは解釈改憲にはどうしたら良いのか。

柳澤協二氏（元内閣官房副長官補）「安倍政権は何を考えているのか？」

尖閣諸島に関する対中国強硬姿勢をとっているが、米国は中国との戦争に巻き込まれたくない。ケリー国務長官とヘーゲル国防長官が10月に来日した際に、靖国神社でなく、千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪問したのは、「中国・韓国と仲を悪くしてほしくない」という意味だ。より良い政府を作るのは、国民の責任だ。

「みんな集まれ！憲法が危ない！！」横浜集会報告

事務局 吉田貞夫

10月20日、横浜関内ホールで開かれた「憲法が危ない」実行委員会主催の集会に参加しました。

うたう弁護士とバンドの演奏ではじまり、中央大学名誉教授伊藤成彦さ



んが挨拶されました。その後に、故品川正治さん、野中弘務さんの「戦争体験で伝えたいこと」のビデオレターを放映しました。

「少年H」で伝えなかったこと

妹尾河童さんの講演を聞きました。妹尾さんの小説「少年H」は、作者が幼い頃体験した実話を基にした内容ということです。ごく普通の市民、神戸市内で洋服店を営んでいた一家が、戦争に巻き込まれ、治安維持法により父親が警察に逮捕され、拷問される体験を描いたものです。

妹尾さんは「あの時代」をちゃんと書くこと、単に大声で「伝える」のではなく、一人一人にわかるように伝えることが大切と話していました。例えば、小学生が読める文章、読むことの分量、四十二章の各章の字数は全く同数にするなど工夫したそうです。

その他にも、戦争体験を単に思い出話にしないこと。子供の行動範囲、子供の目の高さで書くこと。あの時代、あの町、あの人たちの生活、会話や世の動きをそのまま書くこと。登場人物は実名で書き、その人の事実を確認してもらい、追加してもらおう。名文、文芸でなく、子供にもわかる文章、相手に達する文章で書く、ルビをつけるなどなど。読後のアンケートを寄せてくれたのは、十歳から十九歳が一番多かったとのこと。

こうした努力によって、文庫本の上・下の「少年H」ができあがり、好評価を受け、映画になりました。

「平和」「戦争体験」「秘密保護法」の恐ろしさを子供たち、若い人たちに訴えるのによい本です。妹尾河童さんの河童は、肇という名前を変更した、戸籍上の本名だというお話を含めて、こういった集会のあり方、話し方、その内容全体を含めて、大変わかりやすく、その上楽しく聞かせていただきました。

投稿「私の戦争体験」(5)

平塚市公所・加藤 樹治

鶴見の大空襲

1945年(昭和20年)になると、マリアナ諸島を基地として、米軍のB29の空襲が激しさを増して来ました。

川崎・鶴見への大空襲は、私が健民修練所にいた4月15日の深夜にありました。この空襲を私たちは、修練所のある丘から見ていました。ほとんどの修練生は鶴見在住の人たちなので、鶴見・川崎方面の空が真っ赤になっているのを見て気が気でありませんでした。まんじりともせず夜を明かしました。

この日の空襲は、B29・194機が22時43分から0時56分までの間に投弾しました。全焼家屋は、鶴見で1万2658戸といわれます。(『大空襲5月29日』今井清一著)

翌16日、朝食時に教官から、「鶴見・川崎方面が相当被害を受けている。みんなも心配だろうから外出を許可する。家族と連絡をとってこい。午後5時まで帰ってくるように」という話がありました。朝食をかけこむと、みんな我が家を目指して散っていきました。

急いで、向井町4丁目の我が家のあったところに行くと、柱も残っておらずきれいに灰になっていました。この家は、父が亡くなった翌年の1939年に父の死亡一時金で買ったものでした。父は浅野造船(株)(後の日本鋼管鶴見造船所)の労働者で54歳で定年を目前にして胃癌で亡

くなりました。「自分の家を持ちたい」が父の願望であったので、私たちにとっては、この家は父からの贈り物とでもいう大切なものでした。10日前に次兄に赤紙が来て、ささやかな送別の宴がおこなわれたさい、私も修練所から駆けつけました。その折、整理しておいたものも灰になり、アルバムや父の肖像画も、漫画家の「志村つね平」に特別に描いてもらった私の似顔絵もすべて燃えてしまいました。ただ、防火水槽を見ると、皿だのどんぶり等がわずかに残った水のなかで無事でした。

家の前で茫然としていると、近所の人が「榊治さん、帰ってきたのね、おかあさんたち無事よ、潮田神社の森にいるよ」と知らせてくれました。早速神社の森に行ってみると、大勢の人が避難していましたが、すぐ母たちを見つけることができました。近くに住んでいた叔父さん一家も一緒にいました。みな、一睡もせず逃げ歩いたのでげっそりしていました。何よりもお互いの無事を喜びあいました。母と兄の話では、あつという間に焼夷弾の火に囲まれたと言う。東京空襲の経験を知っていたので、陶器類を水槽に投げ入れ、着の身着のまま外に飛び出し、熱にあおられながらも、みんな鶴見川に向かって走ったそうです。鶴見川の川ぶちで夜を明かし、東の空が明るくなってから助かったと実感したそうです。兄が大事そうにズックのかばんを持っているので聞いたら、配給のタバコだということでした。(つづく)

今後の活動予定・連絡

●新年会：1月11日（土）午後0時～2時 YWCA、会費1,000円

飲食を囲みながら、新年の抱負を語り合しましょう。

歌あり、ハーモニカ演奏あり。

申し込みは、大谷事務局長まで。Email: matsukaze@mb.scn-net.ne.jp FAX 24-0712

●成人式宣伝：1月13日（月）午後0時30分～ 総合公園

●月例会：2月1日（土）午後2時～ 中央公民館3FA会議室

●駅前宣伝：2月11日（火）午後2時～ ラスカ前

●月例会：3月1日（土）午後2時～ 中央公民館3FA会議室

●第40回定例学習会：3月22日（土）午後2時～講師 井上駿「孫崎享氏の『戦後史の正体』の紹介」

お知らせ：ニュース配布に多くの会員の方の協力をいただいておりますが、配布の負担を減らすために、できるだけ電子メールによるニュース配信を行おうとしています。パソコンの電子メールアドレスのある方は、是非事務局長あてにアドレスをご通知ください。

通知先：matsukaze@mb.scn-net.ne.jp